

平成29年度 学校関係者評価報告書

大阪市立夕陽丘中学校協議会

1 総括についての評価

- ・学校は概ね適切に自己評価を行っている。
- ・目標や課題に対して取り組みを行っており、成果が出ている。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ①平成29年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ②平成29年度の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を91%以上にする。
- ③平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- ④平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ①平成29年度末の校内調査において遅刻生徒の数を前年度より減少させる。
- ②校内教育アンケートにおける「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ③校内教育アンケートにおける「清掃活動を積極的に取り組んでいる」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。

・今年度は達成状況の評価をCとしているが、目標の立て方に課題がある。次年度は目標の立て方を再検討する必要がある。また、年度目標と各取組内容をリンクさせることも必要である。

・職場体験学習や福祉体験学習などさまざまな行事を取組んでいることは評価できるが、生徒アンケートで「感動・感激する学校行事がある」項目で肯定的に回答した割合が減っている。したがって、次年度は学校行事の運営方法を工夫する必要がある。

年度目標：【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ①平成29年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、前年度より向上させる。
- ②平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率4割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ③平成29年度の中学校チャレンジテストにおける正答率6割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。

- ④平成29年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- ⑤平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるハンドボール投げの平均の記録を、前年度より3m向上させる。

学校園の年度目標

- ①言語活動の取り組みを学校全体で取り入れ、校内教育アンケートにおける「授業で、生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思う。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ②校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互の授業参観を実施する。
- ③すべての教科でICTを活用した授業を実施し、アンケートで「ICT機器を活用することにより学習に対する興味・関心が高まった」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- ④校内教育アンケートにおける「体調面での自己管理ができています」の項目について、「よくあてはまる（ややあてはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ⑤全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「保健体育の授業は楽しいですか。」の項目について、「楽しい（やや楽しい）」と答える生徒の割合を90%以上にする。

・今年度は、全教員が参加する研究授業は実施できなかった。次年度は、日常的な相互参観を通して授業力向上に努めるとともに、指導助言者からアドバイスをもらえる研究協議を実施することで授業力向上につなげていってほしい。

・ICTを活用した授業実践ができていますことは評価できる。しかし、生徒アンケートで「常に授業を大切にしている」項目で、肯定的に回答する割合がここ数年で減っているため、日々の授業を大切にしていきたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

・校内教育アンケートは全体の結果とともに、学年別に集約して、経年比較した結果資料を作成したことは大変評価できる。その資料をもとに、次年度は、生徒や保護者の特徴を分析することで、今後の対策をより深く検討することができる。

・最終評価から、個々の先生方は熱心に取り組んでいることがわかる。また、生徒アンケートからも、授業を工夫されていることがわかる。ただ、「学校へ行くのが楽しい」項目で否定的に回答した生徒もおり、彼らにも目を向け指導や支援をしていただきたい。

・教員の業務量を減らす方策として、部活動の活動日を減らす方向で検討されている。したがって、生徒の生活指導面でのトラブルがないように配慮しつつ、部活動を充実したものにしていく必要があるだろう。

留意事項

提出するときは、様式3とします。(様式3)

平成 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 ○○小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は概ね妥当である。
 児童や保護者アンケート調査の結果から、学校が子どもたち一人ひとりにあった教育活動
 ……

総括シート「本年度の自己評価結果の総括」が妥当かどうかや、その内容に対する学校協議会の意見などを記述します。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：**心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上**

① 今年度の小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)における標準化得点を…
 ② ……

○ 達成状況の評価に関しては妥当である。全国学力・学習状況調査や小学校学力経年調査(中学校チャレンジテスト)を丁寧に分析するほか、学期に1回、児童と保護者に学校アンケートを実施し、課題を明確にできていると考える。
 特に小学校学力経年調査(チャレンジテスト)の結果から考えて、5年生の算数科の
 目標別シートごとに、「達成状況」や「進捗状況」の評価が妥当かどうかや、「結果と分析」欄や「次年度への改善点」欄の内容に対する学校協議会の意見を記述します。
 ……
 ……
 ……
 ……

年度目標：
 ……
 ……
 ……

3 今後の学校運営についての意見

○ 入学式や卒業式、運動会等に加え、本年度より学校公開週間を設定し、開かれた学校づくりを推進していることは評価できる。次年度以降も引き続き行っていただきたい。ただ、地域の参観者だけでなく保護者の参観者が少ないのが課題であると考えます。もっと、事
 前
 ……
 ……
 ……

次年度以降の学校運営はどうあるべきかなど、今後の学校運営全般に対する学校協議会の意見を記述します。

※シートが1枚に収まらないときは、複数枚になってもさしつかえありません。